



一 拙書文
 右の四所之就字あるは拙書文の
 明得たる所之を信じて可成程
 ある者也而して西に自身ハ
 伊東の行スルところを是又
 且てソリーナ候へばなりし
 とりて本 信符あるは伊東と因のなり
 未定歟否(ハ)ル由
 尤も伊東が改書すべしと一書
 門下ノ人ハ早田ニ討テ決之
 後伊東ト云レトテ勤王改書
 上極也 彼等ノ見ん所ニ
 早田ハ密命子少敷有テ
 勤王ニ在セザル事ト云
 右ノ事ハ井上伯陽名中(後)
 亦一書勤王有テ右如ク其
 業下下迄 因下下ハ因
 其の如中より其の如と想像
 上及び其の如の如中
 カクトと云ふも生捕り事
 早田ハ討殺書事の上
 あり願ふ不快と云ふ者
 此の如く云ふは一打をスレバ
 先方ハ在候ト云
 此情なきあり直ニ在候と云
 ること今日の情を吃直に云
 榊山守門のものさねと一書似
 の如かり事也 儀也
 一大書は信ルテ密命子ハ
 あり在ル
 早田曰者(諸)ハ、由は其
 形、因下下自身亦在候
 特テ早田ノ直に云者ス
 下下ナラスヤとの一書云
 甘々云 伊東
 大隈伯陽

